黄金の郷 こしぇるびと Vol.46

高い志のもと、日々〝キラリ〟と光る活動をしている人たちがいる。〝黄金の郷〟いわて平泉を支える、魅力溢れる〝こしぇるびと〟のメッセージをシリーズで紹介していく。

新たな歩みを踏み出す

藤沢町藤沢 及川 華代さん

農業への芽生え

春の日差しが日ごとに強くなってきた3月中旬。建てられたばかりのビニールハウスの中で、及川華代さんは丁寧に畑の耕起作業を行う。

今年就農した華代さん。つい先日までの1年間は農業研修生として、ピーマンとミニトマト農家で知識と技術の吸収に努めてきた。農業への関心が芽生えたのは中学生の頃。漠然とした〝農業もいいかな〟という思いだった。しかし当時、華代さんの自宅は自家消費分の稲作と少しの家庭菜園を営む程度。高校生の時には「この規模では農業では食べ

ていけない」と短大へ進み、そのまま就職という道を選んだ。

転換期

華代さんが再び農業に引かれるようになったのは、就職して約10年が経過した頃。実家の両親が7年ほど前からピーマン生産を始めており、華代さんも〝生まれ育った藤沢で就農したい〟と考えるようになった。さらに〝両親からノウハウを引き継ぎ、農業経営を守っていきたい〟という思いもあって、就農への決意が固まった。

第一歩として、盛岡市で行われた新規就農希望者の個別相談会に足を運んだ華代さん。そこで一関市の新規学卒者等就農促進事業について説明を受けた。研修生として就農に必要な知識や技術が習得できることに魅力を感じ、同事業を活用して就農を目指すことを決めた。

経験を積み上げ

17年春に退職、帰郷。休む間もなく4月からすぐに研修が始まった。自分が栽培する2品目を選定し、ピーマンは藤沢町、ミニトマトは室根町の農家での研修となった。研修先では生産、管理、出荷など一連の作業を経験。「研修先の農家で教わったことはもちろん、他の先輩方のやり方も学んで参考にしていきたい。基本を守りながら経験を積み、自分に合った手法を探していければ」と抱負を語り、「その中で効率化や省力化も意識していかなければ」と自己研鑽を誓う華代さん。「まずは1年間の作業を確実にこなしていきたい」と大地を力強く踏みしめる。

――華代さんの農業は、今始まったばかり。先輩農家そして両親の背中を見ながら新たな一歩を踏み出す。

両親と共に今年の作付けに意欲を高める華代さん

PROFILE

及川　華代さん（31）
Kayo Oikawa

藤沢町藤沢

1986年藤沢町藤沢生まれ。千厩高校、秋田県立短大卒。盛岡市とその近郊での勤務を経て、就農を目指し2017年に退職、帰郷。一関市の新規就農者支援事業の一環で1年間農業研修。18年からピーマン10㌃、ミニトマト7㌃を作付け予定。両親、妹の4人家族。

私の一品

保温調理鍋

じっくり時間をかけての煮込み料理を作るときに大活躍。ブリ大根、ビーフシチューなどレパートリーは多種多様。家族にはカレーが一番好評。